

農作物技術情報 第5号 果樹

発行日 令和8年7月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 果実生育は平年及び前年を上回っています。見直し摘果を進めましょう。誘引や支柱立て、徒長枝の整理を行い、樹幹内部の受光体制の改善に努めます。早生の葉摘み開始は収穫予定の10～20日前ですが、高温が続く場合は無理に行わないでください。
- ◆ ぶどう 品質向上のため、適切な着果管理と病虫害防除に努め、適期に収穫しましょう。また、近年夏季の局所的大雨によって裂果が助長されていることから、急激な土壌水分の変化を防ぐため、排水対策の実施や乾燥時の下草管理などに努めましょう。

りんご

1 生育概況

生育診断圃の果実生育（横径）は、7月1日時点の県平均で「ジョナゴールド」が平年比106%、前年比109%、「ふじ」が平年比115%、前年比114%でした（表1）。

降霜による花器の萎縮が確認された園地では、側果も利用しており、果そう間で果実の肥大にばらつきが見られますが、開花が平年より8日程度早かったこともあり、現時点の生育は平年及び前年を上回っています。

なお、向こう1か月（7/25～8/24）の平均気温は高い予報です（7/23、仙台管区气象台発表）。今後も気象情報に注意し、本号のほか、令和8年7月24日発行の「農作物技術情報特別号 高温対策」も参照し、対策を講じてください。

表1 生育診断圃における果実生育（横径）状況（7月1日時点）

市町村名	地 区	ジョナゴールド					ふ じ				
		本年 (R8)	平年 ※4	比	前年 (R7)	比	本年 (R8)	平年 ※4	比	前年 (R7)	比
岩手県農業研究センター		51.0	48.5	105%	52.8	97%	46.3	43.6	106%	44.4	104%
盛岡市	三ツ割	51.0	47.1	108%	45.2	113%	48.3	42.3	114%	39.2	123%
花巻市	石鳥谷※1	51.5	49.7	104%	44.8	115%	49.1	42.7	115%	40.8	120%
奥州市	江刺樽輪	45.4	46.0	99%	41.4	110%	46.7	42.2	111%	38.7	121%
一関市	狐禅寺※2	51.3	48.4	106%	46.3	111%	46.3	41.8	111%	42.5	109%
陸前高田市	米崎	50.6	48.9	103%	52.0	97%	51.4	43.6	118%	47.2	109%
宮古市	崎山	-	-	-	-	-	51.5	43.1	119%	45.4	113%
二戸市	金田一	51.7	45.6	113%	47.8	108%	47.7	41.1	116%	44.9	106%
県平均値※1（参考）		50.3	47.6	106%	46.3	109%	48.7	42.4	115%	42.7	114%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。

※2 R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子（前定点）の値を使用。

※3 R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉（前定点）の値を使用。

※4 平年値は昭和60年～令和7年の平均（地点変更時はその年次からの平均）

2 栽培管理のポイント

りんごは、現在、来年の花芽が形成する時期に入っていますが、高温や日照不足、干ばつの場合は、花芽形成が抑制されます。また、多湿条件下では、病害の感染・発生が懸念されます。

花芽形成の促進や病害の発生防止のため、日光や薬剤が樹幹内部まで通るように**誘引や徒長枝の整理を行い、受光体制の改善**に努めます。また、着果数の多い部分や生育不良果などの摘果を行い、いま一度着果量を見直しましょう。

りんごの早生品種は、果実の着色と内部品質が一致しないまま収穫期を迎える場合があります。果肉の硬度や地色の抜けに注意して、収穫が遅れないよう**適期収穫に努めてください**。

(1) 摘果の見直し、誘引、徒長枝の整理

仕上げ摘果はほぼ終了し、**見直し摘果を行う時期**です。着果数の多い部分や生育不良果などを摘果します。「ふじ」は、生育不良果のほか、つる割れ果も見えてきますので、随時摘果します。

樹体管理では、枝の誘引や支柱立て、徒長枝の間引きなどを行い、**樹冠内部への日光や薬剤の通りを良く**します。また、台風などに備えて**支柱との結束を確認し、園地の排水対策**も行います。

(2) 早生種の着色管理

ア 早生種の葉摘み開始時期は、収穫予定の10～20日前です。

イ 果そう葉を中心に、最初は軽く2～3枚程度摘みます。

ウ 陽光面の着色が進んだら、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを行うとともに、適当な強さに葉を摘みます。必要以上の葉摘みは、逆に着色が進まないのを避けます。

エ 着色適温は10～20℃です。残暑で最低気温が20℃を超える日が続く場合は、いくら葉を摘んでも着色が進まないのを注意してください。

オ りんごは、日最高気温がおおむね32℃以上になると日焼け果が発生しやすくなります。特に早生種は、高温期に葉摘みを行うため、果面温度が急激に上昇し、日焼けが発生しやすくなります。**日焼け果の発生を軽減**するために次の点に注意してください。

- ・ 葉摘みは、果面温度が十分に上昇した日中に実施する。
- ・ ただし、日最高気温が32℃以上となる場合は、葉摘み作業を控えるか夕方に実施する。
- ・ 過度な夏季せん定は避ける。

カ **土壌水分の急激な変化**による樹体の水分ストレスによっても、日焼け果の発生が助長されるため、高温乾燥が続く場合は、幼木や若木を中心にかん水を行い、**土壌水分を適切に保つよう**努めます。また、養水分の競合を避けるため草生は短く維持し、樹幹下に刈草やわら等でマルチを施すことも有効です。

(3) 極早生品種「紅ロマン」の日焼け対策

ア 「紅ロマン」は容易に着色する品種なので、最小限の葉摘みを心掛け、日焼けを防ぎます。1回目の葉摘みは、収穫予定の10日前頃に、果実に触れている葉を軽く摘む程度に留めてください。2回目の葉摘みは、1回目の1週間後を目安に、玉回しと併せて行いますが、**高温下では無理に葉摘みを行わず、玉回しを中心に進めます**。

イ 「紅ロマン」では、気温が急激に上昇する危険のある梅雨明け後に、**被覆資材（商品名：サンテ®）で果実を被覆**することが有効です（写真1）。果面が受ける日射量が減少し、果面温度の上昇が抑えられ、日焼け果の発生を軽減できます。

日最高気温が32℃以上の日数に比例して、日焼け果の発生割合や発生程度は大きくなる傾向があるので、週間天気予報などを活用しながら対策を講じます。

取り付ける際は、果実の肩まで被い、取り外しの際は、果実が落下しないように行います。

なお、収穫時までサンテ®で被覆しておくと、果実の着色に影響を及ぼすので、**収穫予定の数日前に取り外す**作業が必須となります。



写真1 「紅ロマン」における日焼け果の症状(左)とサンテ®の被覆状況(右)

(4) 落果防止剤の散布

収穫前に落果しやすい「つがる」や「きおう」には、落果防止剤を使用して落果を抑えます。使用の際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。特に「きおう」の**内部裂果で早めに熟す果実の取り扱い**は、農薬の使用基準に違反しないよう**厳重に注意**してください。

また、夏秋期に高温となる年は、収穫前落果が助長されることがあります。過去に収穫前落果が発生した品種については、**落果防止剤の散布を検討**し、準備しておきます。品種・園地ごとに過去の発生実態を把握したうえで、散布の可否を判断します。

なお、落果防止剤の散布により、収穫期の前進化や果実硬度の低下が想定されるため、**使用の判断にあたっては、集出荷・販売の対応も併せて検討**してください。

(5) 早生種の収穫

ア 一般に、りんごは満開後一定の日数で成熟する傾向があり、この日数は品種によってほぼ定まっています。今年の満開日から見た**収穫期の目安は表2のとおり**ですが、これは北上市成田の満開日より算出しており、県南の平場ではこの予想日より早まることが予想されます。

また、向こう1か月(7/25～8/24)の平均気温は高い予報であり(7/23、仙台管区気象台発表)、高温により着色しにくくなる可能性もあるため、過度な着色は期待せず、**食味・硬度等を確認の上、適期収穫**を心がけてください。

イ **すぐりもぎが基本**です。特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」は徹底します。

ウ 「紅ロマン」は、**収穫前の7月下旬に、心かびの果実が先行して着色**するため、これは樹上で除外します。また、収穫については、着色が先行するため、食味を確かめ、香りや果汁が十分に出てから収穫してください。地色は、いくらか青みが残る程度を目安とし、果肉が白いうちに収穫します。なお、果実品質を保持するため、収穫期が高温で経過する場合は、**果実温度が低い朝に収穫**し、できるだけ早く出荷(予冷)してください。高温年には、果肉が褐変する「**ゴム症**」が発生することがありますが、果皮の上から水浸状の症状が見えるので、**出荷物に混入させないよう注意**してください。

エ 「きおう」は、ツル浮き(内部裂果)が発生しやすい品種で、特に降水量が多い8月に入ってから発生します。内部裂果したものは正常果よりも早く熟すので、特に**収穫前半はツル浮き果が混入しないよう注意**してください。

オ 「つがる」は、収穫後の果肉の軟化が早く、収穫が遅れると果面に油上りが発生しやすいので、地色に注意して**遅取りを避け、収穫後はできるだけ早めに予冷**してください。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期 までの 満開後数	満開後日数 による 収穫予想日※2	収穫期の果実品質の目安			
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数※3
紅ロマン	4月27日	100 ～ 110日	8月5日 ～ 8月15日	－	12～14	2.5～3	2.5～3
きおう	4月29日	115 ～ 125日	8月22日 ～ 9月1日	13～14	13以上	2～3	2.5～3.5
つがる	4月29日	115 ～ 125日	8月22日 ～ 9月1日	13～14	12～14	3～3.5	2～3

※1 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日 ※2 きおう、つがるは収穫開始予想日

※3 紅ロマン、つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

(6) 「紅いわて」の収穫前管理

「紅いわて」は着色の非常に良好な品種であるため、軽い葉摘み作業でも十分に着色します。陽光面が着色した時点で果面に付着している葉を取り除き、枝カゲをつくらないよう軽く玉まわしを行います。「紅いわて」はつるが短い傾向にあるため、玉まわしは慎重に行ってください。

高温年は、糖代謝の異常で「早期みつ症」や「みつ症」が発生することがあります。一般的に発生程度は軽微ですが、果皮の上から水浸状の症状が見えるものについては、出荷物に混入させないように注意してください。

(7) 夏季せん定（わい性樹）

ア 樹勢の強い樹を対象に、8月下旬～9月上旬にかけて行います。

イ 側枝の上面から発生している30cm以上の直上枝を間引くほか、30cm以下の新梢でも枝量と混み具合を見ながら、日光、薬剤が通る程度に適宜間引きます。

ウ なお、過度な夏季せん定は樹勢を弱めるとともに、果実の日焼けを助長します。樹勢の低下は、紫紋羽病の発病誘因となることがありますので、発病の恐れのあるところでの夏季せん定は最小限にとどめてください。また、果実の日焼けを防止するためにも、過度な夏季せん定は控えます。

3 病虫害防除

- (1) 褐斑病や斑点落葉病の発生に注意し、多発が懸念される場合は速やかに特別散布を実施します。
- (2) 炭疽病は、6月後半が高温で推移した場合、病原性が強い *C. gloeosporioides* による秋期の多発を警戒し、入梅期（6月中下旬～7月上旬）のほか、**8月の防除も徹底**します。病原菌は雨媒伝染するため、降雨前の予防散布を徹底し、**樹上の発病果は重要な伝染源となるため、見つけ次第摘み取り処分**します。
- (3) 果樹カメムシ類は、園地をよく観察の上、大量の飛来が確認された場合は、効果の高い薬剤により速やかに防除を実施してください。
- (4) シンクイムシ類の発生に留意し、散布間隔を空けすぎないように防除を行きましょう。
- (5) **ハダニ類は、主幹近くの新梢葉（普通樹では主幹や主枝の徒長枝葉）をよく観察し、要防除水準（寄生葉率30%）に達した場合は直ちに防除を実施してください。**
- (6) その他の病虫害についても、病虫害防除所の発生予察情報や防除情報を参照し、園地の発生状況をよく観察して、適期防除に努めてください。
- (7) 早生品種の収穫が近づいています。薬剤散布は、**農薬の使用基準（特に収穫前日数）をよく確認して、誤使用のないよう注意**してください。除草剤についても同様です。

ぶどう

1 生育概況

生育診断圃（紫波町）の「キャンベルアーリー」の結実率は、55.5%で**平年及び前年より良好**です（表3）。また、新梢長や節数、房長は平年を上回り、果径は平年並です。

本年の展葉期や満開期は平年より10日早かったことから、新梢や果房の生育は平年を上回り概ね順調です。一方、**結実率が良好**であることから、**摘粒の見直し作業が遅れないよう注意**し、果径を平年並以上に維持することが重要となります。

なお、向こう1か月（7/25～8/24）の平均気温は高く、降水量は平年並の予報です（7/23、仙台管区气象台発表）。ぶどうは、比較的高温・乾燥に強い樹種ですが、令和7年のように極端な高温・干ばつがあると果実肥大が抑制されるため、今後も**気象情報に注意**し、葉色や新梢の生育を観察しながら**適宜対策**を講じます。本号のほか、令和8年7月24日発行の「農作物技術情報特別号 高温対策」も参照してください。

表3 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次	結実率 (%)	7月15日時点での生育			
		新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)	果径 (mm)
本年(R8)	55.5	176.1	22.5	17.0	16.5
平 年	43.3	130.3	16.2	14.7	16.3
平年差・比	12.2	135%	139%	116%	101%
前年(R7)	46.7	163.9	17.0	16.1	17.7
前年差・比	8.8	107%	132%	106%	93%

※平年値のうち、結実率は、平成9年から令和6年の平均値、他の数値は、昭和49年から令和7年の平均値。

2 栽培管理のポイント

(1) 摘粒の見直し

果房の形を整え、品質を向上させるため、**着粒の多い密着房、裂果粒、病害虫果粒を中心に摘粒を実施**します。1房当たり粒数の目安は、「キャンベルアーリー」、「ナイアガラ」が70粒程度、「サニールージュ」が50粒程度、「シャインマスカット」が40～50粒、「紅伊豆」が30～40粒、となりますので、見直しを行ってください。

(2) 摘 房

果実の糖度や着色など品質を向上させ、同時に樹体の養分の消耗を防いで翌年の花芽の充実を図るため、**適正着房数を目標に摘房を実施**します(表4)。

しかし、「キャンベルアーリー」で樹勢が弱い場合は、表4によらず1房当たりに必要な葉数(概ね15～24枚で1房、25枚以上で2房)で着房数を制限してください。

「紅伊豆」などの大粒種において、樹勢をコントロールする目的で1新梢2房としている場合でも、着色や糖度の上昇の遅れ、樹体の凍寒害発生を防ぐために、着色開始を目途に最終房数とします。

なお、高温の影響や日照不足などで着色遅延となり収穫が遅れると、果実品質の低下や樹体の耐凍性の低下が懸念されます。場合によっては、着房数を基準より減らして着色促進を図ることも必要です。**過着果や弱樹勢の樹があれば、早めに着房数を見直し、着色の向上に努めます。**

表4 主な品種の収量構成要素の目安

品種※1	仕立様式	新梢数※2 (本/坪)	着房数		必要な葉数	目標収量 (kg/10a)
			(房/坪)	(房/本数)		
キャンベルアーリー	短梢	20	27～30	1.35～1.5	1房:12～16枚	2200
					2房:17～22枚	
サニールージュ	短梢	19～20	16	0.8	15～18枚	1700
紅伊豆	長梢	15	10～12	0.67～0.8		1200
シャインマスカット	短梢	8		0.8		1600

※1 「サニールージュ」は暫定値

※2 「シャインマスカット」は主枝1mあたりの新梢数

(3) 新梢管理

棚面を明るくして果房の着色を向上させ、樹勢をコントロールして養分の浪費を防ぐため、**勢力の強い新梢を中心に間引きや摘心を行います**。硬核期以降(7月下旬以降)に実施しますが、①赤色系品種、②紫黒色系品種、③白色系品種の順に棚面を明るくします。

短梢栽培では、葉数確保のため副梢についても基部から2～3枚の葉を残して摘心していきます。しかし、**混み合っている場合は適宜間引いてください。**

なお、成熟期の高温により、果房の上部に日焼けが発生し、果粒が萎れることがあります。新梢の誘引を見直しつつ、**果実に直接日が当たらないよう注意するとともに、過度な摘葉は控えます**。また、クラフト傘などを利用した傘かけも有効です。

(4) 収 穫

今年の収穫は、平年より早まることが想定されます。着色だけではなく、**糖度などの食味に留意しながら（表5）、適期収穫に努めます**。特に、高温が続くと着色が緩慢になるので、過度な着色は期待せず、**食味や果肉の硬さを重視して収穫します**。

収穫は、**果実温度が低い早朝から午前中に行います**。降雨後は、糖度も下がり、輸送中の腐敗も多くなるので避けてください。

選果・調整は、果粉を落とさないように穂柄を持ち、未熟果、腐敗果、裂果等を除き、出荷形態に即して房形を整え出荷します。

なお、収穫に当たっては、**農薬使用基準の使用時期（収穫前日数）に注意してください**。

表5 品種別収穫時期の目安

品種	基準糖度	房の状態	備考
デラウエア	18%以上	着色完了2～3日後	酸抜けが遅い、食味重視
サニールージュ	18%	房全体が紫赤色	脱粒少ない
キャンベルアーリー	14%以上	房全体が黒紫色	
紅伊豆	18%以上	房全体が鮮紅色	過熟果は軟化や脱粒が多い
シャインマスカット	18%	房全体が黄緑色	



写真2 裂果した「紅伊豆」

(5) 裂果対策

収穫直前の急激な土壌水分の変化は、裂果の発生を助長します（写真2）。土壌が乾燥し過ぎないように、土壌水分を収奪する雑草の刈り取り、樹冠下への敷きワラ等を実施します。また、降雨があった場合には、**過剰な水分を早期に排水できる**よう、根域周辺にビニール等を敷く、溝掘り（明渠）するなどの対策を実施します。

「紅伊豆」などの**雨よけハウス栽培**では、温度が高くなりやすいハウス中央部などで、果実の着色不良や果肉の軟化が裂果や脱粒を誘発することがあります。気温が高くなると予想される日は、サイドのビニールを巻き上げる、換気扇を利用する等**温度が上がりすぎないように努めます**。

3 病虫害防除

- (1) 病虫害の発生状況に応じて防除を実施しますが、収穫が間近になっているため、**農薬の使用基準（収穫前日数、散布濃度、使用回数）や散布履歴を十分確認した上で防除を行ってください**。薬剤によっては、果粉の溶脱、果面の汚れなど品質を損ねることがありますので、薬剤を選択する際は注意してください。
- (2) 晩腐病は、6月後半が高温で推移する場合、病原性が強い *C. gloeosporioides* による多発を警戒し、入梅期（6月中下旬～7月上旬）のほか、8月の防除も徹底します。病原菌は雨媒伝染するため、降雨前の予防散布を徹底し、**樹上の発病果は重要な伝染源となるため、見つけ次第摘み取り処分**します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は8月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症
防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。